

早期英語教育のための参加型教材の効用について

金 澤 延 美

(駒沢女子短期大学)

I. はじめに

2002年度4月より「総合の学習の時間」が設置され、公立小学校3年生から英語活動を取り入れることが可能になった。文部科学省は、2002年度には69.4%の小学校が英語活動を取り入れたと発表している。諸外国においても初等教育課程に外国語教育を導入している国々の増加は著しく、日本においても近い将来の導入を求める声が高まりつつある。そのような動向を踏まえて、幼児のための英会話教室や、保育内あるいは課外として英会話や英語活動を提供する幼稚園数も増加してきている。

樋口他(1990,1991)による英語学習開始年齢が習熟度にどのような影響を及ぼすかという研究では、listening, speaking の学習時間が長くなればなるほど、低年令で学習を始めたグループの方がより高い習熟度に到達する可能性があるとしている。また、伊藤他(1989)によれば、早期英語教育経験児は全体的に英語を含めた外国語教育に対して積極的な態度を示し、外国人や外国文化に対して受容的、寛容的であるとしている。早期英語教育経験児の場合、楽しく英語に親しんだ経験が英語学習に対する積極的な態度を身につけると考えられる。

子どもたちが楽しみながら「英語」に親しむことができる早期英語教育のための教材としては、どのようなものが利用価値が高いのであろうか。これを明らかにするために、日常の保育の中でも利用頻度の高い、「歌」「ゲーム、アクティビティ」「絵本の読み聞かせ」を取り上げ、2つのアンケートを試みた。「早期英語教育教材に関するアンケート」「日常の保育教材に関するアンケート」を園児の保護者(親)に依頼し、比較研究を行った。同一被験者に対して2つのアンケート調査を行うことができなかったため、なるべく近い環境にあると考えられる2園の年長児の親を対象とした。

本研究の目的は、今後の保育現場における英語導入に当たって期待できる支援と利用価値の高い教材は何かを明らかにすることにある。

II. 調査計画

1. 調査目的

- (1)英語に親しむ時間と日常の保育時間の活動の中で、親たちはそれぞれどのような内容が適切であると考えているかを調べる。
- (2)家庭における子どもとの会話等から判断し、選択し

た教材を使用した際の子どもたちの反応を探り、早期英語教育教材と日常の保育における教材との間の相違点の有無について調べる。

2. 調査内容

早期英語教育の中で利用頻度が高い以下の3教材を取り上げ、英語活動における場合と通常の保育内の場合の子どもたちの反応を比較する。「とても楽しんでいる」から「とても嫌がっている」までの7段階尺度形式を用いた。

- a. 歌について
- b. ゲーム、アクティビティについて
- c. 絵本の読み聞かせについて

3. 被験者

この調査は合計121名の年長児の保護者を対象とした。有効回答は108名であった。

(A グループ) 早期英語教育教材アンケート回答者は、英語に親しむ「英語のお遊びの時間」を保育の一環として取り入れている都内のA幼稚園年長児の親。(有効回答: 61)

(B グループ) 日常の保育における教材アンケート回答者は、都心にごく近い埼玉県のB幼稚園の年長児の親。(有効回答: 47)

4. 実施時期

早期英語教育教材アンケート...2001年3月

日常の保育における教材アンケート...2003年3月

III. 結果と考察

1. 保育内容・教材に対する親の反応

早期英語教育および日常の保育内容、教材の中で好ましいと思うものの高い順にあげると次のようになる。

A グループ (早期英語教育の場合) (複数回答)

- | | |
|-------------------|-------|
| 1. 歌 | 62.3% |
| 2. アクティビティ、ゲーム等 | 59.0% |
| 3. 絵本の読み聞かせ | 57.3% |
| 4. ひらがなを覚える | 9.8% |
| 5. 動物や果物等の漢字の読み書き | 0% |

B グループ (日常の保育) (複数回答)

- | | |
|-----------------|-------|
| 1. 歌 | 80.9% |
| 2. アクティビティ、ゲーム等 | 76.6% |
| 3. 絵本の読み聞かせ | 74.5% |
| 4. ひらがなを覚える | 12.8% |

5. 動物や果物などの漢字の読み書き 0%

上記の結果から、どちらのグループの親も、読み書きなどの学習でなく、歌、ゲーム、アクティビティ、絵本を使用しての指導内容を期待していることが分かる。早期英語教育教材および日常の保育での教材の選択順位は上位3までの項目は同じであり、音声重視で楽しみながら英語に親しむことを期待していることが分かる。

2. 教材について保護者の観察による子どもの反応

表1 「歌」についての子どもの反応 (%)

	A グループ	B グループ
大変楽しんでいる	30.0%	74.5%
楽しんでいるようだ	65.0%	23.4%
どちらかという嫌	5.0%	2.1%

* Aグループ：早期英語教育 Bグループ：日常の保育

表2 「ゲームや活動」についての子どもの反応

	A グループ	B グループ
大変楽しんでいる	42.5%	80.9%
楽しんでいるようだ	52.5%	19.1%
無回答	5.0%	0%

日常の保育時間に日本語で行われる場合、「大変楽しんでいる」という回答は、単に「楽しい」という回答の3倍以上であるが、英語の場合は、逆であることが分かった。しかし、「歌」「ゲーム、アクティビティ」の各教材については、Aグループ95.0%、95.0%、Bグループ97.9%、100%と、いずれのグループも子どもたちが「楽しんでいる」様子がうかがわれるという肯定的な回答であることが分かった。いずれの教材についても、男女差はなかった。

表3 「絵本の読み書き」についての子どもの反応

	A グループ	B グループ
大変楽しんでいる	20.0%	80.9%
楽しんでいるようだ	42.5%	19.1%
どちらかという嫌	22.5%	0%
かなり嫌なようだ	2.5%	0%
無回答	12.5%	0%

「絵本の読み聞かせ」については、日本語の絵本の場合は、「大変楽しんでいるようだ」が80.9%、「楽しんでいるようだ」が19.1%と全員が楽しんでいることが分かった。一方、英語絵本の場合は、「大変楽しん

でいるようだ」が20.0%であり、「楽しんでいるようだ」と併せると62.5%と、5人に3人という割合であった。なお、男女差はみられなかった。「どちらかという嫌がっているようだ」あるいは「無回答」との回答をした親のコメントとしては、「英語だと、お話がよく分からないらしい」「英語絵本の読み聞かせをしてもらった話は子どもから聞いていない」が多く見られた。

子どもたちが絵本の読み聞かせが大好きであることから、英語絵本の利用価値は高いと考えられる。しかし、有効利用については選択や読み聞かせのテクニック等、今後の工夫が必要であることが分かった。

IV. まとめ

今回の調査研究を通して、子どもたちが楽しみながら学んでいくことができる教材は、根本的には日本語、英語の区別はほとんどないことが分かった。同時に、早期英語教育教材に関して、ほとんどの親は、英語学習の先取りではなく、音声を重視しながら楽しく英語に親しむことが大事であると考えていることが分かった。早期英語教育のコミュニケーション能力育成に主眼をおく早期英語教育の方針と親の考えが一致していることを知った意義は大きいといえる。

早期英語教育教材としての「歌」「アクティビティ、ゲーム」「絵本」は、子どもたちが積極的に関わる能動的な「楽しい活動」につながりやすい。これらは、意識的努力をせずに、英語のリズム・アクセント・抑揚・調子、また言語構造に触れることができ、「異文化に触れる」要素をも含む利用価値の高い教材といえる。

母語の基本は4.5才ごろにはできあがっており、模倣能力が一番高い4才から8才位の間が第2言語習得開始に最適期であるといわれている。

早期英語教育実践においては、子どもたちにとって理解しやすく興味で認知しやすい音声重視の言語材料を利用することが、基礎作りをしっかり行い次の学習のステップにつなげるために重要であるといえる。特に、「歌」「アクティビティ、ゲーム」「絵本」教材は子どもたちの積極的な活動を促し、英語に親しむ機会を与える効用が大きいと考えられる。

参考文献

- 伊藤克敏 (1994) 「早期英語教育」小池生夫 (監修) 『第二言語習得研究に基づく最新の英語教育』大修館書店
衣笠知子 (2003) 「伝承遊びを用いた英語活動の意義と活動例」『日本児童英語教育学会 (JASTEC) 』第22号。